

令和 7 年度国立大学法人等  
職員採用（図書系）第二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は 16 問（25 ページ）で，解答時間は 1 時間 30 分です。
2. この問題は，後ほど回収します。切り取ったり，転記したり，持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄及び解答用紙に第一次試験受験番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号
氏名

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、2024 年 2 月 16 日に内閣府統合イノベーション戦略推進会議において策定された文書の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

- 公的資金による学術論文等の即時オープンアクセスの実施
  - (a) 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者（法人を含む）に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び〔ア〕の学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける。
  - (b) 即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費制度は、学術論文を主たる成果とするものとし、関係府省が定める。
  - (c) 即時オープンアクセスの対象は、査読付き学術論文（電子ジャーナルに掲載された査読済みの研究論文（著者最終稿を含む））及び〔ア〕（掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる研究データ）とする。
- 学術論文及び〔ア〕の機関リポジトリ等の情報基盤への掲載
  - (a) 学術論文及び〔ア〕の機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を通じて、誰もが自由に利活用可能となることを目指す。
  - (b) 機関リポジトリ等の情報基盤とは、第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）において「研究データの管理・利活用のための我が国の中核的なプラットフォーム」として位置付けた〔イ〕上で学術論文及び〔ア〕が検索可能となるものとする。

(1) この文書の名称を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 学術情報のオープン化の推進について（審議まとめ）
- (b) 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
- (c) 公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方
- (d) 我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）

(2) (ア) に該当する語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 個人データ
- (b) 根拠データ
- (c) 書誌データ
- (d) 統計データ

(3) (イ) に該当する語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) Jxiv (ジェイカイク)
- (b) 科学技術情報発信・流通総合システム (J-STAGE)
- (c) 研究データ基盤システム (NII Research Data Cloud)
- (d) ジャパンサーチ (JAPAN SEARCH)

【No. 2】

次は、大学図書館の在り方に関する最近の政策文書とその公表時期である。これらについて以下の問いに答えなさい。

---

(ア) 令和 2 年 9 月 30 日

科学技術・学術審議会 学術分科会・情報委員会

「コロナ新時代に向けた今後の学術研究及び情報科学技術の振興方策について（提言）」

(イ) 令和 5 年 1 月 25 日

科学技術・学術審議会 情報委員会 オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）」

(ウ) 令和 6 年 7 月 1 日

「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

「オープンサイエンス時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて～2030 年に向けた大学図書館のロードマップ～」

---

(1) (ア) の文書の内容と最も合致する文章を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 図書館は、基本的人権の一つとして知る自由を持つ国民に、資料と施設を提供することを最も重要な任務とする。知る自由は、表現の送り手に対して保障されるべき自由と表裏一体をなすものであり、知る自由の保障があってこそ表現の自由は成立する。ここに掲げる「図書館の自由」に関する原則は、国民の知る自由を保障するためであって、すべての図書館に基本的に妥当するものである。
- (b) コロナ新時代における教育・研究の発展に向け、多様な研究データや蓄積された学術情報に対し、研究者が開館時間内に図書館に来なければ利用できないシステムや仕組みの構築が必要である。
- (c) コロナ禍により、学術情報の集積拠点である大学図書館への物理的なアクセスが制限された結果、教育研究活動に大きな影響が生じたことを踏まえ、大学図書館においては、今後、より一層、デジタル化を進めることが必要である。

(2) (イ) の文書の内容と最も合致する文章を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 教育・研究の現場で起こりつつあるデジタル・トランスフォーメーション (DX) は大学図書館の在り方に影響を与えている。研究面では、オープンサイエンスとデータ駆動型研究の推進が求められており、これまでの図書や論文等のほか、研究データも対象に管理・公開等を行うことになるため、大学図書館職員には、研究のライフサイクルを理解し、研究者とともに研究を推進する関係を構築することが求められる。
- (b) 物理的な場としての大学図書館は、物理的な空間と仮想的な空間が融合する場、あるいは仮想的な空間に対する高度なインタフェースといった付加価値を持つ場として発展し、時空を越えて人とコンテンツあるいは人と人をつなぐものとなる。そのため、「デジタル・ライブラリー」の実現によって、大学図書館の物理的な場は不要になるだろう。
- (c) 学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、その支援を行うことが大学図書館に求められている。近年、整備が進められているラーニング・コモンズとは、学生が集まって様々な情報資源を用いて議論を進めていく学習の「場」を提供するものである。この「場」を利用してライティングセンターの講義、図書館の使い方のガイダンス、教員による研究会を実施することで、学生や教職員の知的交流活動の活性化を図ることが可能であろう。

(3) (ウ) の文書の内容と最も合致する文章を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた当面の目標である「2030 年の大学図書館の望ましい姿」を具体的に描き、「実現に向けた課題」を整理した。その上で、大学図書館、国、大学、大学図書館関係団体等が目標の達成に向けて、何に取り組む、段階的に何を実現していくべきかをロードマップの形で示した。
- (b) 国内の大学における情報アクセスの平等性の観点から、国が出版社と包括的な購読契約を結ぶ「ナショナル・サイト・ライセンス」が必要である。
- (c) このロードマップにおいては、サービスの基盤としてのコンテンツのデジタル化・オープン化の促進や、大学図書館の論理構造としての「ライブラリー・スキーマ」の明確化に基づく大学図書館機能の具体化と実装を、優先的に取り組むべき領域とし、オープンサイエンスに係る支援等に対応できる人材の育成は優先度の低い課題とされている。

【No. 3】

次は、大学図書館のカウンターでの学生との会話である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Emma: I'm looking for some books. Would you help me find them?

Librarian: Sure! Have you checked the holdings on the OPAC?

Emma: No, I haven't. Can you show me how to do that?

Librarian: Yes, please come this way. (They walk up to the PC.) First, go to the English top page and click on the OPAC. On this page, you can find out the location of a book.

Emma: That looks easy enough. (She enters some information about a book.)

Librarian: Here, you need to take a note of both the location and the (ア) to find where the book is located.

Emma: OK. I'll write them down.

Librarian: If a book you want to borrow is (イ) out on loan, it's possible to make a reservation for that book through the OPAC. Take this library guide for further information.

Emma: Thank you so much for your help!

Librarian: You're welcome!

-----  
Lucy: Excuse me. It's been two weeks since I checked out these books, but I still need them for my report. Is it possible to extend the loan period? (She hands her student card to the librarian.)

Librarian: OK, let me check. (She checks her circulation record.)

According to our rule, (ウ)

For the first book, you have already renewed it once, so you cannot do it for the second time in a row.

Lucy: Oh, really? What should I do then?

Librarian: First, please return this book. When it gets back on the shelf, you can borrow it again.

Lucy: No problem, then. I'll return it for the moment.

Librarian: As for the second book, you cannot renew it either since (エ) there is a reservation made by another user.

Lucy: How unlucky I am! How long will it take until the book is returned?

Librarian: The next person can also borrow it for two weeks. If you can't wait until then, you can try to find it in another library.

Lucy: That's a good idea! Thank you so much.

(1) 文中の (ア) に該当する最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) call number      (b) ISBN      (c) Material ID      (d) title

(2) 下線部 (イ) に該当する最も適切な日本語訳を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 延滞図書      (b) 貸出対象      (c) 貸出中      (d) 禁帯出

(3) 文中の (ウ) に該当する最も適切な文章を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) I'm afraid external users cannot reserve a library item.  
(b) you can renew a book only once.  
(c) you can't borrow any books without your ID.  
(d) your library card will be issued after three days.

(4) 下線部 (エ) に該当する最も適切な日本語訳を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 他の利用者の予約が入っている  
(b) 他の利用者の予約が入っていない  
(c) 他の利用者が予約することができる  
(d) 他の利用者の次に予約することができる

【No. 4】

次は、インターネット上での情報へのアクセスを支える技術に関する記述である。

(1) ～ (4) の文章の内容を示す最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 情報資源を効果的に識別・記述・探索するために、その特徴を記述したデータ。一般的には、データについてのデータと定義される。データの相互運用性を確保するために、「ダブリンコア」をはじめとする標準的なデータ記述方式を使用することが多い。
- (2) マークアップ言語の一つ。文書やデータの論理構造、意味を記述するタグを独自に指定することができ、拡張性に富む。拡張マークアップ言語。
- (3) インターネット上の電子資料を一意に識別する国際的なコード。各機関に固有のプレフィックスと、個々のコンテンツを特定するサフィックスから構成されている。ブラウザ等に入力すると URI に変換され、それを使って電子資料にリンクを張ることができる。電子資料の恒久的な識別を可能とする永続的識別子の事例の一つ。
- (4) あるウェブサービスを外部のアプリケーションやプログラムから扱えるようにしたインターフェース。アプリケーション・プログラム開発者向けに公開されており、検索エンジンやショッピングサイト等で急速に普及してきた。図書館関係では、国立国会図書館のサービスでの公開事例等がある。

- |             |             |               |
|-------------|-------------|---------------|
| (a) DOI     | (b) ISNI    | (c) MARC レコード |
| (d) ORCID   | (e) RSS     | (f) TeX       |
| (g) Web API | (h) Web UIP | (i) WebEx     |
| (j) XML     | (k) メタデータ   | (l) リンクトデータ   |



【No. 5】

次は、大学図書館を取り巻く著作権に関連する記述である。(1)～(4)に該当する最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1) 著作権者の権利は、大きく分けると「著作者人格権」と「著作権（財産権）」の二つで構成されている。「著作者人格権」は著作者の精神的利益を守るための権利であり、氏名表示権、同一性保持権、(1)がこれに該当する。
- 2) 著作権法では、権利制限規定と呼ばれる、著作権者の了解を得ずに著作物を利用できる例外規定が置かれている。ただし、その利用には条件が定められており、報道、批評、研究等を目的として公表された著作物を引用する場合、「公正な慣行」に合致し、また「正当な範囲内」であることのほか、(2)が第 48 条によって求められている。
- 3) 2021 年の著作権法改正により、一定の図書館等において図書館資料の一部分をメール等で送信することが可能とされた際、図書館等の設置者が権利者へ補償金を支払う「図書館等公衆送信補償金制度」が設けられた。(3)は、この制度に対応して補償金の徴収・分配を行う団体であり、2022 年 11 月に補償金を受ける権利を行使する団体として文化庁長官から指定を受けた。
- 4) 2018 年 12 月 30 日の「TPP11 協定（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）」発効に伴い同日に施行された著作権法改正により、原則として(4)以降に死亡した著作者による著作物は、死後 70 年保護されることとなった。

(a) JASRAC

(b) SARLIB

(c) SARTRAS

(d) 1948 年

(e) 1968 年

(f) 2018 年

(g) 公の伝達権

(h) 公表権

(i) 出所の明示

(j) 肖像権

(k) 転載の許諾

(l) 二次情報の開示

【No. 6】

次は、『日本十進分類法 新訂 10 版』を使用した分類作業に関する記述である。これらの中から、分類作業として適当でないものを三つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 資料の主題や内容を把握するためには、その資料を読むことが最も適切で正確な方法かもしれないが、分類作業においては効率化を図るために、タイトルのみを確認で分類する必要がある。
- (b) 複数の主題がある資料の場合、それぞれに対応する複数の分類記号を必要に応じて付与することが望ましい。
- (c) 分類においては、目録作業者の主観による判断が最も重要である。分類の判断に迷ったとしても、過去の事例を参考にする必要はない。
- (d) 複数の主題がある資料の場合、一つの主題が他の主題に影響を及ぼした場合は、原則として影響を受けた側に分類する。  
例：浮世絵のフランス絵画への影響 → フランス絵画 (723.35)
- (e) 複雑な主題を正確に表現するためには、分類記号の合成（組み合わせ）、つまり番号構築が必要になることがある。日本十進分類法では基本的に細目表の分類記号を基礎記号とし、それに補助表の記号を付加する方法が用意されている。
- (f) 形式区分が複数適用できる場合には、形式区分の優先順序に留意して適用することが求められる。日本の図書館では、優先順序の高い形式区分を一つ選択して付加するのが一般的である。
- (g) 関連索引を引く際は、そこで見つけた分類記号をそのまま採択するのではなく、細目表に戻って、前後の分類項目を確認したり、注記や参照にも目をとおり、当該分類記号が適切かどうかを確認することが必要である。
- (h) 複数の観点から取り扱った資料の場合、主になる観点が不明なときは、最も数字の小さな分類記号を選択する。  
例：生産から見た米（稲作 616.2）、流通から見た米（611.33）、調理から見た米（596.5）の三つの観点から取り扱った資料の場合 → 調理から見た米（596.5）

【No. 7】

次は、電子ジャーナルの契約に関連した記述である。(1)～(4)に当てはまる最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1) とは、「全時間で働く(学ぶ)者」という意味をもっている。これは電子ジャーナルの価格を決めるための基準の一つとして使われる。多くは、大学の学部学生数、大学院生数、助教以上の教員数等が対象となる。
- 2) とは、電子ジャーナルの契約においては、地理的に一つにまとまっているという意味で使われている。大学では複数のキャンパスにそれぞれ図書館を持つところが多く、数も契約価格を決める要素の一つである。
- 3) 電子資料のアクセスの認証方式には、契約の際にその大学のの範囲を版元に伝えて、その範囲で利用可能とする、「認証」という形がある。
- 4) 大学図書館には、時々、大学に所属していない利用者も入館し、利用することがある。一時的に利用する者をと呼び、電子ジャーナルの利用については、契約の中で、その利用を認める条項を設けていれば可能となる。

- |                 |            |               |
|-----------------|------------|---------------|
| (a) FTE         | (b) FTP    | (c) IP アドレス   |
| (d) ウォークイン・ユーザー | (e) サイト    | (f) スーパー・ユーザー |
| (g) 多要素         | (h) 同時アクセス | (i) パスワード     |
| (j) バックファイル     | (k) ブロック   | (l) ビッグディール   |

【No. 8】

次は、IFLA Principles for the Care and Handling of Library Material（1999）の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

What are the main threats to library material?

- ・ The nature of the material itself
- ・ Natural and man-made disasters
- ・ The environment in which it is kept
- ・ The way material is handled

Traditional library collections contain a wide range of organic materials, including paper, cloth, animal skins, and adhesives. Such organic substances undergo a continual and inevitable natural ageing process. While measures can be taken to slow this deterioration by careful handling and providing a sympathetic environment, it is impossible to halt it altogether.

The chemical and physical stability of library material also depends on the quality and processing of the raw products used in their manufacture together with the design and construction of the final artefact.

Over the centuries, the pressures of mass production have reduced the material quality of what is received in libraries. Much of the paper stock manufactured after 1850 is highly acidic, is becoming brittle, and will self-destruct in time. Binding techniques have been abbreviated for the sake of automation and many textblocks are now held together solely by adhesive. In fact, all books and, in particular, leather bindings, are far more susceptible to damage than most people appreciate.

Modern media such as microforms, optical and magnetic disks, digital formats, photographs, and audio and visual media, all have inherent preservation problems and need to be stored and used carefully if they are not to perish prematurely.

It is commonly difficult to accept is that a large amount of library material is reaching the end of its natural life, and the few years that it has left can only be prolonged by careful handling and storage.

Why preserve?

- ・ The type of library and how it is used reflect the preservation needs of its collections. The preservation requirements of a local public lending library are obviously different from those of a national library. However, both are obliged to maintain and keep accessible their collections, whether for a few years or indefinitely.

- ・ Economically, libraries cannot afford to let their holdings wear out prematurely. Replacing library material, even when possible, is expensive. Preservation makes good economic sense.
- ・ It cannot be easily predicted what will be of interest to researchers in the future. Preserving current collections is the best way to serve future users.
- ・ Responsible and professional library staff should be committed to caring for and preserving the material with which they work.

(1) 図書館資料の主な脅威の例として、本文の内容には合致しないものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |              |          |               |
|--------------|----------|---------------|
| (a) 自然災害     | (b) 修復保存 | (c) 資料そのものの性質 |
| (d) 資料の取り扱い方 | (e) 人為災害 | (f) 保管環境      |

(2) 本文の内容に合致するものを下から三つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 図書館の蔵書には幅広い有機物が含まれている。このような有機物は、絶えず自然劣化しているが、注意深い取り扱いや適切な環境を用意することによって、劣化を完全に止めることができる。
- (b) 何世紀にもわたり、大量生産の影響によって、図書館資料の物質的な品質は低下してしまった。1850年以降に製造された紙の多くは、酸性が強く、脆くなっており、いずれは自滅してしまうだろう。
- (c) マイクロフォーム、光ディスク、磁気ディスク、デジタル・フォーマット、写真、オーディオおよびビジュアル・メディア等、現代のメディアは、何も問題がなく、永久に情報を保存できる。
- (d) 大量の図書館資料がその寿命の終わりに近づいていることを受け入れるのは一般的に簡単である。残された数年を延ばすために、現代のメディアに変換すればよい。
- (e) 図書館の種類とその使い方によって、蔵書の保存ニーズは異なる。地域の公共図書館の保存に求められるものと、国立図書館のそれとは明らかに異なる。しかしながら、数年間であろうと無期限であろうと、どちらの図書館も、蔵書を維持し、アクセス可能にしておく義務がある。
- (f) 図書館が資料を買い換えることは、経済的に理にかなった方策である。
- (g) 研究者は常に新しい資料を必要としている。新しい資料を受け入れていくために、現在の蔵書を廃棄していくことが将来の利用者に奉仕する最善の方法である。
- (h) 責任のある、また専門性を持つ図書館職員は、自らが扱う資料の手入れをし、保存することに尽力すべきである。

【No. 9】

次は、デジタルアーカイブに関する用語の説明文である。(1)～(4)の文章の内容を示す最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) デジタル画像へのアクセス方法を標準化し、画像の相互利用を促進するための国際的な枠組み。この枠組みに準拠した画像は、対応したビューアーであれば、ビューアーを特定せずに利用することができる。これまで特定のビューアーに依存することの多かったデジタル画像の閲覧方法に画期的な変化をもたらした。
- (2) 人文学分野のデジタル資料が持つ多様なテキスト情報を適切に表現するための標準策定を目的とした国際プロジェクト。書誌情報、階層構造、注釈等、資料に関する様々なレベルの情報を XML により記述する。
- (3) 著作物の自由利用促進を目的とする国際プロジェクトが策定したライセンス。著作者の希望する形で著作物の再利用条件を明示できるよう 4 種類のライセンス(「表示 (BY)」「非営利 (NC)」「改変禁止 (ND)」「継承 (SA)」)が用意され、それらを組み合わせて使用できる。
- (4) オンラインで公開されるデジタルコンテンツの権利や再利用の条件を分かりやすく示すことを目的とした国際標準。著作権の有無や商用利用の可否等により 12 種類のライセンスがある。

- |                        |                   |          |
|------------------------|-------------------|----------|
| (a) Europeana          | (b) IIIF          | (c) ISIL |
| (d) JaLC               | (e) JSON          | (f) LOD  |
| (g) OAI-PMH            | (h) Public Domain | (i) RDF  |
| (j) Rights Statements  | (k) TEI           |          |
| (l) クリエイティブ・コモンズ・ライセンス |                   |          |

【No. 10】

次は、学術雑誌に関する用語の説明文である。(1)～(4)の文章の内容を示す最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (1) 引用頻度を用いて、文献群の重要度や影響力を測定するための尺度の一つ。引用影響度、影響力係数ともいう。文献群としては、1雑誌の掲載論文、1著者の執筆論文等が用いられる。
- (2) 大学図書館コンソーシアム連合。2011年4月、国立大学図書館協会コンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアムが国立情報学研究所(NII)との連携のもとで統合し発足した。学術出版社等との交渉を通じて、電子ジャーナル等の電子リソースの契約や利用の条件を確定することを主な任務とし、図書館職員の資質向上や国内外の他のコンソーシアムとの連携にも取り組んでいる。
- (3) 学術雑誌に掲載されている論文等の全文の利用を、一定の期間、直接の購読者以外に認めないこと。またその期間のこと。オープンアクセスになるまでの期間を指す場合が多いが、アグリゲータ等の第三者のデータベースでコンテンツの利用が可能になるまでの期間を指すこともある。
- (4) 論文出版加工料、論文掲載加工料、論文処理費用、オープンアクセス出版料、等と訳される。論文をオープンアクセスにするための出版費用として、通常は著者が負担する。

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| (a) APC                | (b) API         |
| (c) JUSTICE            | (d) ORCID       |
| (e) PPV (Pay Per View) | (f) SPARC       |
| (g) インパクトファクター         | (h) エンバーゴ       |
| (i) オルトメトリクス           | (j) コアジャーナル     |
| (k) サイトライセンス           | (l) プレダトリージャーナル |

## 【No. 11】

次は、図書館における目録の作成とその利用に関する記述である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

目録作業の効率化を図る方策として「分担目録作業」がある。例えば、A 図書館と B 図書館とが同一の図書を購入した際に、A 図書館が作成した目録データを B 図書館で使うことができれば、B 図書館での労力は大幅に減少する。

各館が作成した目録データを一つのデータベースに集約しておけば、そこから必要なデータを複製して目録を作成することができる。もちろん、データベース中にそれが存在しない場合（未登録の場合）には、一から目録を作成しなければならないが、データベースに JAPAN/MARC 等の外部の MARC を取り込んでおけば、その手間は減るかもしれない。

このような分担目録作業を通じて、データベースには、 (ア)  が自然に記録されることになる。分担目録作業によって形成されたデータベースは、一般に「 (イ)  データベース」と呼ばれる。「 (イ) 」は、複数の図書館の蔵書目録を統合・編集したもので、 (ウ)  には欠かせない道具である。

国立情報学研究所では、次の二つのシステムを開発・運用している。

- ・ 目録システム (NACSIS-CAT)
- ・  (エ)  システム (NACSIS- (エ) )

目録システムは、オンライン分担目録方式によって  (イ)  データベースを形成するためのものであり、各大学図書館等における目録業務は、このシステムを直接利用しながら行う。また、各大学図書館等の参考業務、 (ウ)  においても、データベースの検索機能を利用することができる。

(エ)  システムは、目録システムで作成した  (イ)  データベースを参照し、図書館間の  (ウ)  を効率的に行うためのシステムである。

(1) (ア) に当てはまる最も適切な文章を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 各図書がどの図書館でどれだけ利用されているかという典拠情報
- (b) 各図書がどの図書館でどれだけ利用されているかという利用情報
- (c) 各図書がどの図書館に所蔵されているかという所在情報
- (d) 各図書がどの図書館に所蔵されているかという書誌情報



(2) (イ) に当てはまる最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |          |          |
|----------|----------|
| (a) 財産目録 | (b) 資産目録 |
| (c) 総合目録 | (d) 典拠目録 |

(3) (ウ) に当てはまる最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |            |             |
|------------|-------------|
| (a) 選書業務   | (b) 相互貸借業務  |
| (c) 蔵書構築業務 | (d) 発注・受入業務 |

(4) (エ) に当てはまる最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |         |         |
|---------|---------|
| (a) DDS | (b) ILL |
| (c) IR  | (d) REF |

【No. 12】

次は、機関リポジトリについて説明した文章である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

**Why Should My Institution Have an IR?**

There are many reasons to implement an IR. Here are some common ones:

- To increase the (ア) of your institution's scholarship.
- To provide unified access to your institution's scholarship.
- To provide (イ) to your institution's scholarship.
- To preserve your institution's scholarship.

**Can Authors Legally Deposit Scholarly Articles in IRs?**

If scholars retain the copyright to their articles, they can deposit any version of them wherever they wish. However, most scholars transfer their article rights to a journal publisher as part of the publication process and, consequently, it is the publisher's policies that govern deposit. For example, a publisher may permit use of a preprint, but not the published article file. Copyright and publisher policies need to be considered for self-archiving other types of published scholarly works as well.

注) 本文中の IR は、Institutional Repositories の略である。

出典) Charles W. Bailey, Jr. 『Institutional Repositories, Tout de Suite』

(1) (ア) に当てはまる最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| (a) embargo and publication costs  | (b) number of users and loaned books     |
| (c) visibility and citation impact | (d) visibility and journal impact factor |

(2) (イ) に当てはまる最も適切な語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| (a) open access         | (b) open AI            |
| (c) open access mandate | (d) open access policy |

(3) 本文の内容に合致するものを下から二つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 多くの著者は著作権を出版社に譲渡しており、リポジトリで公開できる論文の版については出版社の方針に従う必要がある。
- (b) 学術成果の著作権は必ず著者にあるため、著者は論文のいずれの版でもリポジトリへ登録できる。
- (c) 機関リポジトリに登録できるのは一般的に著者最終稿である。
- (d) 著作権を著者が持っている場合は、著者は論文のいずれの版でもリポジトリに登録できる。
- (e) 論文以外の学術成果については、出版社の方針を考慮する必要はない。

## 【No. 13】

次は、全国の学生を対象とした「学生生活調査」（日本学生支援機構）における「大学の学生支援体制への満足度」についての統計表である。これについて以下の問いに答えなさい。

<令和 4 年度調査>

## 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学院・博士課程）

(単位:%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		満足	やや満足	やや不満	不満			
図書館・自習室などの学習支援施設	国 立	37.8	32.8	9.0	2.7	17.7	-	100.0
	公 立	25.4	36.2	13.1	4.6	20.4	0.3	100.0
	私 立	37.4	34.1	10.4	4.5	13.4	0.2	100.0
	平 均	36.8	33.4	9.6	3.3	16.8	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国 立	10.2	11.9	4.7	2.4	70.7	0.1	100.0
	公 立	8.3	12.7	3.2	4.1	71.5	0.1	100.0
	私 立	10.0	10.2	5.2	3.5	70.7	0.4	100.0
	平 均	10.0	11.5	4.7	2.8	70.8	0.2	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国 立	12.6	15.4	5.4	3.2	63.4	0.0	100.0
	公 立	11.1	15.5	5.5	3.7	64.0	0.3	100.0
	私 立	14.8	13.1	6.4	3.7	61.7	0.3	100.0
	平 均	13.0	14.8	5.7	3.3	63.0	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国 立	17.9	28.0	12.6	6.9	34.5	0.0	100.0
	公 立	14.9	23.5	10.6	7.4	43.6	-	100.0
	私 立	17.7	24.1	11.4	6.7	39.6	0.4	100.0
	平 均	17.7	26.7	12.2	6.9	36.5	0.1	100.0

## 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学学部・昼間部）

(単位:%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		満足	やや満足	やや不満	不満			
図書館・自習室などの学習支援施設	国 立	42.7	43.0	8.5	2.1	3.7	0.0	100.0
	公 立	40.9	43.4	8.7	2.5	4.4	0.2	100.0
	私 立	44.1	39.3	6.6	1.7	8.3	0.1	100.0
	平 均	43.7	40.1	7.0	1.8	7.3	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国 立	12.9	18.7	4.4	1.2	62.8	0.0	100.0
	公 立	19.7	25.2	4.9	1.5	48.5	0.2	100.0
	私 立	25.9	25.8	4.5	1.4	42.2	0.2	100.0
	平 均	23.4	24.6	4.5	1.4	45.9	0.2	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国 立	14.3	18.7	4.8	1.5	60.7	0.0	100.0
	公 立	18.4	24.5	5.0	1.2	50.7	0.3	100.0
	私 立	23.1	25.0	4.4	1.7	45.6	0.2	100.0
	平 均	21.4	24.0	4.5	1.6	48.4	0.2	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国 立	19.6	27.3	9.0	3.5	40.5	0.0	100.0
	公 立	26.9	30.4	7.4	2.4	32.5	0.3	100.0
	私 立	26.1	28.4	8.1	2.7	34.4	0.3	100.0
	平 均	25.1	28.3	8.2	2.8	35.3	0.3	100.0

&lt;令和 2 年度調査&gt;

## 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学学部・昼間部）

（単位：％）

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立	3.6	11.7	41.0	33.0	10.7	0.1	100.0
	公立	2.8	11.5	41.2	32.8	11.8	0.0	100.0
	私立	3.2	8.7	36.7	33.0	18.5	0.0	100.0
	平均	3.2	9.3	37.6	32.9	16.8	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立	1.8	6.0	17.8	7.3	67.0	-	100.0
	公立	2.0	7.3	20.9	9.9	59.7	0.1	100.0
	私立	2.3	6.5	22.6	14.1	54.4	0.1	100.0
	平均	2.2	6.4	21.7	12.8	56.8	0.1	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立	1.9	6.0	15.8	7.3	69.0	0.1	100.0
	公立	1.8	6.2	17.4	8.6	66.0	0.1	100.0
	私立	2.4	6.2	19.2	10.6	61.4	0.1	100.0
	平均	2.3	6.2	18.5	10.0	62.9	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立	2.3	10.0	29.0	14.3	44.3	0.1	100.0
	公立	1.8	8.0	33.1	20.1	37.0	0.0	100.0
	私立	2.8	9.3	28.5	17.9	41.3	0.1	100.0
	平均	2.7	9.3	28.8	17.4	41.6	0.1	100.0

注）見出しの並び順（網掛け部分）は出典のまま、令和 4 年度調査とは項目の順序が異なる

（１）統計表に基づき、以下の文中の（ア）と（イ）に当てはまる数字を、それぞれ整数（小数第一位を四捨五入）で答えなさい。

令和 4 年度調査（大学院・博士課程）で「図書館・自習室などの学習支援施設」を「利用したことがある」と答えた学生のみの割合で計算し直した場合、国立の「満足・やや満足」の割合は （ア） % で、私立の「満足・やや満足」の割合 （イ） % より多い。

（２）統計表から読み取れる内容として、最も適切なものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

（a）令和 4 年度調査（大学学部・昼間部）と令和 2 年度調査（大学学部・昼間部）のいずれにおいても「図書館・自習室などの学習支援施設」を利用したことがある学生の割合は、それ以外の「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」等を「利用したことがある」と答えた学生よりも少ない。

- (b) 令和 4 年度調査（大学学部・昼間部）と令和 2 年度調査（大学学部・昼間部）を比較すると、「図書館・自習室などの学習支援施設」を「利用したことがない」と答えた学生の割合は令和 4 年度調査で増加している。
- (c) 令和 4 年度調査で大学院・博士課程と大学学部・昼間部を比較すると、「図書館・自習室などの学習支援施設」を「利用したことがない」と答えた学生の割合は、大学院・博士課程の方が大学学部・昼間部より多い。
- (d) 令和 4 年度調査で「図書館・自習室などの学習支援施設」を「利用したことがない」と答えた大学院・博士課程の学生の割合が大学学部・昼間部より多い理由は、博士課程になると自宅や研究室から電子ジャーナル等を利用することが増え、図書館に滞在して利用する機会が減るためである。働きながら学ぶ社会人の大学院生が増えていることも理由の一つである。

【No. 14】

次は，国立情報学研究所の研究データ関連のサービスまたはシステムの説明文である。

(1) ～ (4) に該当する最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1)  は，研究者が研究データや関連資料を管理・共有するための研究データ管理サービスです。研究者は本サービスのクローズドなファイルシステムで共同研究者とデータ共有を始めることができます。研究プロジェクト中に生成されるファイルを保存して，バージョン管理やメンバー内でのアクセスコントロール，メタデータの登録や管理ができます。
- 2)  は，オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）と国立情報学研究所（NII）が共同で運営する機関リポジトリのクラウドサービスです。論文や研究データを登録，公開するために必要な機能を有しています。核となる機関リポジトリソフトウェアにはNIIが開発したWEKOを採用しています。
- 3)  は日本最大規模の学術情報検索サービスです。研究成果や論文情報のみならず，図書，研究データ，それらの成果を生み出した研究者，そして研究プロジェクトの情報等を包括して探索することが可能です。
- 4)  は，高等教育機関における教材コンテンツ共有プラットフォームとして，機関ごとに学習者の受講状況を確認できる等の機関管理者向けオプション機能を提供する学習管理システムです。各機関で学べる研究データ管理教材も提供しています。

- |                 |                         |                    |
|-----------------|-------------------------|--------------------|
| (a) CiNii Books | (b) CiNii Dissertations | (c) CiNii Research |
| (d) ERDB-JP     | (e) GakuNin RDM         | (f) JAIRO Cloud    |
| (g) KAKEN       | (h) NII-REO             | (i) SINET          |
| (j) SPARC Japan | (k) 学認 LMS              | (ℓ) 学認クラウド         |

【No. 15】

次は、図書館利用に障害のある人へのサービスに関連する記述である。(1) ～ (4) に該当する最も適切な語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1) 2016 年 4 月に施行された障害者差別解消法では、障害を理由とする差別的な扱いを禁止し、また行政機関等（国公立大学図書館を含む）は、利用等において障害者から  が求められた場合、過重な負担にならない限り提供しなければならないと規定した。 の提供は、事業者（私立大学図書館を含む）については努力義務とされていたが、2024 年 4 月の改正法施行により義務化された。
- 2)  は、障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにすることを目的として、2019 年 6 月に施行された法律である。この法律では、基本理念、国・地方公共団体の責務と共に、「インターネットを利用したサービスの提供体制の強化」等、9 つの基本的施策等が規定されている。
- 3) 障害のある人たち向けの資料の一つに録音図書がある。録音図書は、かつてのカセットテープ等にアナログ録音したものに代わり、現在はデジタル録音図書が主流となっている。 は、デジタル録音図書の国際標準規格であり、日本では「アクセシブルな情報システム」と訳されている。視覚障害者以外にも高齢者や学習障害、知的障害、精神障害の人たちにも有効とされ、国際的に広く認知されてきている。
- 4)  が提供する「視覚障害者等用データ送信サービス」は、 が製作又は収集した視覚障害者等用データを、利用者登録した視覚障害者等個人や承認を受けた図書館等に対して送信するサービスである。「みなサーチ」を通じてサービスを利用することができる。

- |               |             |                  |
|---------------|-------------|------------------|
| (a) DAISY     | (b) DSA     | (c) WCAG         |
| (d) 合理的配慮     | (e) 国立国会図書館 | (f) 国立情報学研究所     |
| (g) 雇用機会      | (h) 社会福祉援助  | (i) 障害者文化芸術活動推進法 |
| (j) 読書バリアフリー法 | (k) 日本点字図書館 | (l) 文字・活字文化振興法   |



【No. 16】

次は、アメリカ図書館協会（ALA Council）が図書館専門職が備えるべき知識やスキルを 9 つのカテゴリーに分けて表した “ALA’s Core Competences of Librarianship”（2022 年版）のうち、5 つのカテゴリーについて、その一部を抜粋したものである。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

ALA’s Core Competences of Librarianship	
カテゴリー	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">Gateway Knowledge（当初から備えておく知識）</div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Employ the ethics, values, and foundational principles of the library profession.</li> <li>・ Promote democratic principles and intellectual freedom (including freedom of expression, thought, and conscience).</li> <li>・ Consider the history of libraries and librarianship and their role within the context of society.</li> </ul>	
カテゴリー	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">( 1 )</div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Recognize the ethical and appropriate application of key research methods, techniques, and designs in the field, including the generation, analysis, evaluation, and presentation of data, and the utilization of research tools.</li> <li>・ Understand principles and issues evolving with research, including an awareness of how professional and cultural values may influence each stage of the research lifecycle, the barriers related to access to research, and the tension between research and its application to professional practice.</li> </ul>	
カテゴリー	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">( 2 )</div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Effectively plan, manage, implement, and close projects using the concepts of leadership methods.</li> <li>・ Participate in strategic communication with colleagues throughout the organization and the community.</li> </ul>	
カテゴリー	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">( 3 )</div>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Identify appropriate technologies and uses that support access to and delivery of library services and resources.</li> <li>・ Conduct regular evaluation of existing and emerging technologies and their impact on library services and resources in terms of accessibility, practicality, sustainability, and effectiveness.</li> </ul>	

カテゴリー (4)

- ・ Employ techniques used to discover, retrieve, evaluate, and synthesize information from diverse sources for use by varying user populations and information environments.
- ・ Understand and apply methods and practices necessary to provide consultation, mediation, instruction, and guidance in using recorded knowledge and information for all user populations and information environments. Emphasize problem-solving skills to determine informational needs during the reference interview process.

(1) ～ (4) に当てはまる最も適切なものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) Information Resources (情報資源)
- (b) Lifelong Learning and Continuing Education (生涯学習と継続教育)
- (c) Management and Administration (管理運営)
- (d) Organization of Recorded Knowledge and Information (記録された知識と情報の整理)
- (e) Reference and User Services (レファレンス・利用者サービス)
- (f) Research and Evidence-Based Practice (調査・研究と根拠に基づいた実践)
- (g) Social Justice (社会的公正)
- (h) Technological Knowledge and Skills (テクノロジーの知識とスキル)

【英文の出典】

“ALA’s Core Competences of Librarianship”  
Approved and adopted as policy by the ALA Council,  
January 28, 2023,  
[https://www.ala.org/sites/default/files/educationcareers/content/2022%20ALA%20Core%20Competences%20of%20Librarianship\\_FINAL.pdf](https://www.ala.org/sites/default/files/educationcareers/content/2022%20ALA%20Core%20Competences%20of%20Librarianship_FINAL.pdf)

【日本語訳の出典】

未来の図書館研究所 (2023) 『図書館員の未来カリキュラム』, 青弓社, pp.308-314.